

0ペクレル／(パー)kg以下の土壌では「反転耕」、5、000ペクレル／(パー)kg以上の土壌では「表土の削り取り」が有効な除染技術であることが分かりました。

また、表土の削り取りを実施した圃場に作付した米から検出された放射性セシウム濃度は100ペクレル／(パー)kg以下であり、国が定めている暫定基準値500ペクレル／(パー)kgを下回る結果でした。

今後、実施されるモデル除染、本格的除染事業では、今回の実証試験の除染技術を中心に現地にあった技術が適用されるものと考えています。

環境省の草野大師堂地内の除染モデル事業

11月29日に地権者説明会を開催し、現在、現地事前調査、放射線のモニタリング調査を実施し、今後、除染を予定しているところです。

このモデル事業は、今後の村の除染事業のあり方が問われるものと考え、国等には可能な限り、空間線量が低減となるよう除染を求めているところです。

また、国は、来年3月までに実施の検証、評価を行う予定ですが、復興計画村民会議の除染部会でも独自の検証、評価を行うこととしています。

除染に伴う仮置場について

10月29日に環境省から除染により発生した土壌処理のロードマップが発表されました。仮置場については3年程度、市町村ごとで保管し、その間に中間貯蔵施設を県内に確保して、平成26年度内から移送できるという内容です。

村では、村の仮置場として、村クリアセンターに隣接する国有林内に設置することを議会、農業委員会代表者、行政区長会で提案、説明をし、それぞれ了承を受け、南相馬市には村の仮置場の方針について申し出をしています。

さらに、仮置場を設置する地元の小宮地区への説明会を3回開催しながら、理解を求めてきたところです。

仮設事業所・工場整備事業

この事業は、県及び中小企業基盤整備機構の支援を受けて、実施しています。

現在のところ、相馬市、松川工業団地、川俣町、飯野町地内などに14事業所の仮店舗と仮事業所の建設が進み、営業及び事業を再開しています。

また、伊達市の工業団地にも4事業所の仮事業所を今後建設する予定です。

東京電力の原子力災害損害賠償について

東京電力の原子力損害賠償は、9月から本賠償が進められていますが、村の被害の状況や被災者の実態を反映しておらず、多くの村民から不満が寄せられています。

村では賠償請求にあたり、被災者側に不利な条件が盛り込まれていることなど、東電の対応状況についての問題点の把握につとめているところです。

また、請求については、専門家に相談するなど慎重な対応を呼びかけ、国や原子力損害賠償紛争審査会に改善の要望を行っています。

9月以降の精神的被害の減額、精神的被害額に含まれるとされていた生活費の上昇分についても別枠で補償の対象となるなど、

要望活動により改善されている事項もありますので、今後も他の被災自治体・県はじめ関係団体と連携を図りながら損害賠償の改善に努めます。

除雪体制について

全村避難の中ですが、村民の一時立ち入りや村内継続事業所、全村見守り隊の方々の通行の安全確保、村内の交通の円滑化を図るため、今年も村内の除雪を実施します。

除雪1次路線は、57路線、10.2kmを、除雪2次路線は、12.3路線10.3kmを除雪します。

また、作業実施については、放射線量管理、作業時間の制約などを設け、作業員の健康管理を図ります。

教育委員会の構成について

教育委員の任期満了により前の教育委員長佐藤隆明さんが10月5日付で退任し、その後任として10月6日付で宮内行政区の菅野クニさんを任命しています。

10月13日に臨時教育委員会が開催され、新しい教育委員長に佐藤真弘さん、委員長職務代理者に菅野クニさんが選任されています。

小学校及び幼稚園の仮設校舎等の進捗状況

小学校は、現場測量と川俣町当局、近隣住民の皆様への説明等を終え、11月15日から外構工事に着手しています。

4月からの施設供用に向けて鋭意、工事を進めます。

幼稚園の状況ですが、現在、建築確認を申請中です。確認手続きが完了次第着工し、4月までには完成できる見込みです。

中学校の状況

早期に生徒の学習環境の改善を図るため、福島市飯野町地内の工場施設を借用し、仮設校舎として整備したいと考えています。

平成22年度の幼稚園修了式・小学校卒業式

12月25日に川俣町で開催することとしました。

10月18日に学校、幼稚園関係者による実行委員会を立ち上げ、思い出に残る卒園・卒業式を開催すべく準備を進めているところです。

全国からの村に対する支援

10月8日から10日まで、川崎市からのご招待により52世帯1

74人の親子が川崎市、横浜市の遊戯施設等での楽しい休日を通しました。また、相馬農業高校飯館校の生徒21人がいたてっ子未来基金に寄せられた寄付金を財源として11月16日から17日の日程で群馬県高崎経済大学付属高校との交流事業を行いました。

中学生の福島大学一日体験入学

中学3年生53人が11月9日に実際に福島大学の授業に参加し、大学の雰囲気を感じてもらいました。

また、同日、飯館中学生による特別授業が同じ福島大学で行われました。

8月にドイツを訪問した飯館中の生徒3人が講師となり、大學生を前にドイツ研修の成果を報告いたしました。会場には環境問題等に関心のある学生300人ほどが集まりました。

第5回市町村対抗軟式野球大会

9月18日に開催され、飯館村チームは、練習ができない状況での参加でしたが、大玉村チームと対戦し、接戦の末、4対5で惜敗しました。

絆つながるまでいな一日

9月19日に松川第一仮設住宅駐車場を会場として開催しました。

歌手の加藤登紀子さんをはじめとしたミュージシャン、比曾の三匹獅子舞などの郷土芸能、模擬店などで交流を図り、村民学生ボランティア、医療ボランティアなど、約1,500人の参加者で賑わいました。

第23回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

11月20日に開催され、後半の部に出場しました。

選手は自分の力を出し切り、懸命にタスキをつなぎましたが、オープン参加ということで記録には残りませんでした。

しかし、最終区間で村の部の区間賞を獲得するなど、飯館チームの健闘ぶりを示すことができました。

義援金、見舞金の状況について

全国の方から寄せられた義援金は、11月25日までに1,072件、2億9,340万円余りとなり、この中から村民1人当たり3万円を村からの見舞金として給付し、給付額は1億9、

614万円、給付率99.9%となつています。

国県義援金配分の配分状況

1次配分額は1世帯当たり40万円、支給額は7億9,075万円、支給率99.9%、2次配分額は1人当たり20万4千円で、支給額13億4,012万円、支給率99.8%です。



飯舘村は財政の健全化に努めています

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、飯舘村の平成22年度健全化判断比率等を公表します。

この法律では、地方公共団体は、毎年度、健全化判断比率等を算定し、監査委員の審査に付したうえで、議会に報告するとともに、住民に対し公表することを義務付けています。

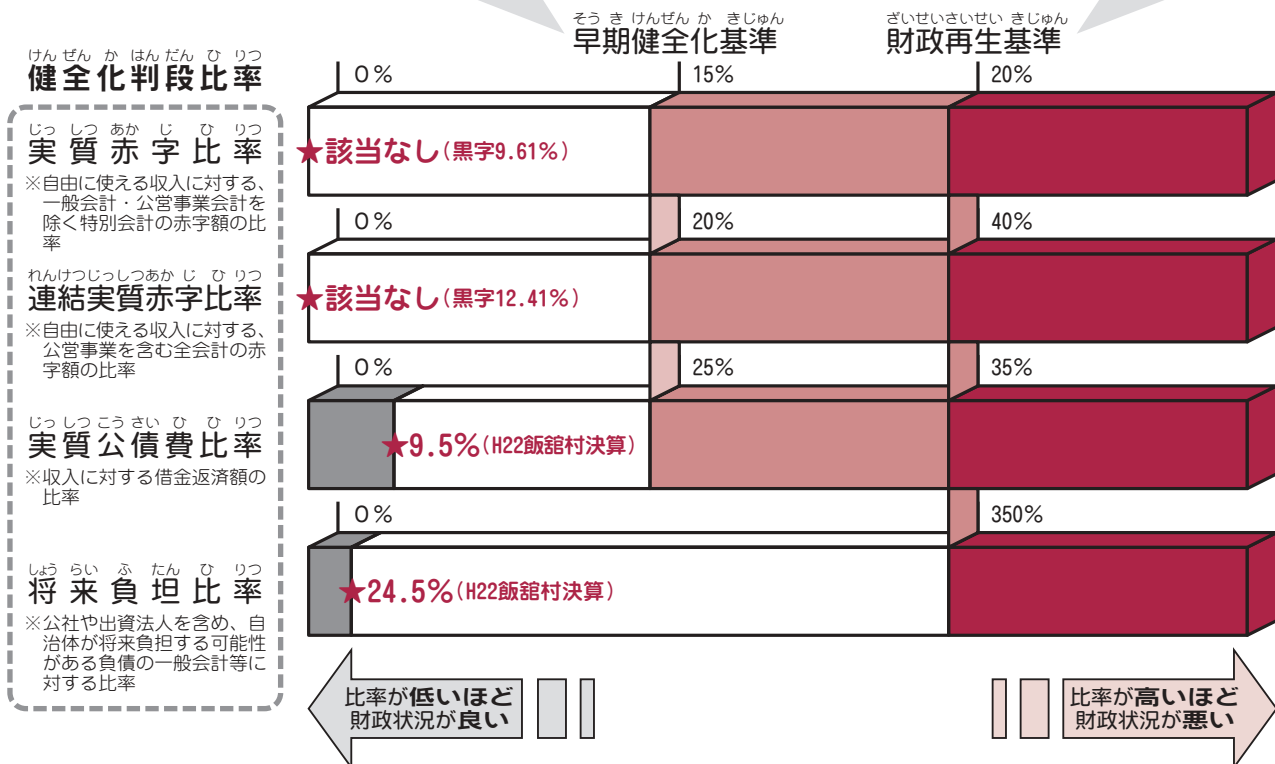
各地方公共団体は、健全化判断比率の数値により、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3つの段階に区分され、早期健全化段階や財政再生段階になった場合には、それぞれの仕組みに従って財政健全化を図ることになります。

本村の平成22年度健全化判断比率等は「健全段階」であり、平成21年度と比較して、「実質公債費比率」が0.8ポイント、「将来負担比率」が13.2ポイント、それぞれ減少し、数値の改善が見られました。

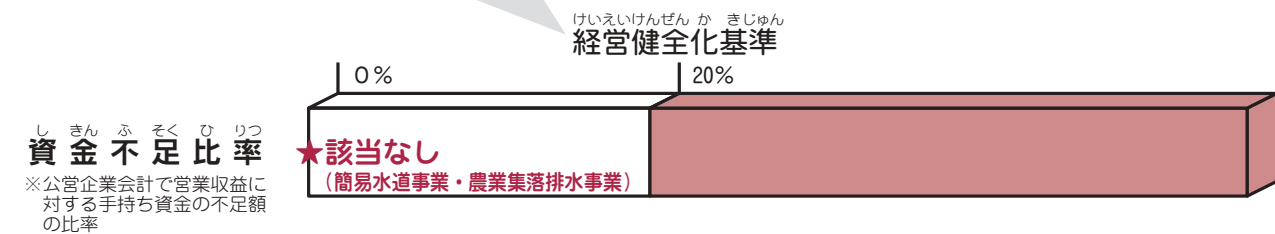
この要因は、普通交付税、基金残高等が増加したことではありますが、比率算定の分母にあたる地方交付税の額の変動要因が大きいことから、引き続き、適正な財政運営に努めていく必要があります。

この基準を一つでも超えると、財政健全化計画の策定、外部監査、議会への報告・公表など様々な財政健全化策を実施することになります。

この基準を一つでも超えると、財政破たんの状態と判断され、財政再生計画の策定など、国による指導・勧告・承認を受けないと財政執行ができなくなります。



公営企業会計の資金不足比率が一つでもこの基準を超えると、経営健全化計画の策定が義務付けられます。



12/8 いたて復興計画村民会議が村に答申書を提出

いたて復興計画村民会議が村の諮問に対する答申をまとめ、飯野出張所で村に答申書を提出しました。



▲村長に答申書を手渡す菅野委員長(中央)と佐野副委員長(左)

同会議は、村民の代表、村議員、村職員、アドバイザーらの委員で構成され、村から復興計画に関する基本理念、復興計画についての諮問を受けていました。

10月に発足してから、村の若手職員がまとめた「いたてまでいな復興プラン」庁内検討委員会の報告書を骨子に、村が抱えている課題や復興に向けた基本方針、復興に必要な施策などについて①健康・リスクコミュニケーション②教育③除染④仕事の4つの部会に分かれて検討を重ね、5回にわたる全体会議でその調整を行ないながら計画をまとめてきました。

提出された計画は、村民一人ひとりの復興を目指すことを軸に、村に帰る人だけでなく村に戻りたくとも戻れない人の復興も支援する内容となっています。

また、①生命(いのち)を守る②子どもたちの未来をつくる③人と人がつながる④原子力災害をのりこえる⑤までいブランドを再生するという復興の5つの柱をつくり、短期、中期、長期の期間に渡って施策・事業を進めていくものとなっています。

菅野啓一委員長(比曾)と佐野ハツノ副委員長(前田・八和木)からの答申を受けた村長は「村の計画ではあるが村民一人ひとりの計画書。誠心誠意対応していく」と話しました。

村では、この計画を第1版とし、今後の状況の変化などを見ながら必要な見直しを行っていく考えです。

12/14~12/15 東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会を開催

12月14日と15日の2日にわたり、第8回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会(大谷友孝委員長)が開かれ、村が提案した放射性物質の仮置き場の設定といたてまでいな復興計画の策定に関する調査を行いました。この委員会は議長を除く11人の議員で構成されています。

14日には飯野出張所3階の議場で、仮置き場と復興計画の担当者からそれぞれ聞き取りにより内容を確認し、翌15日には、放射性物質の仮置き場予定地となっている小宮行政区内のクリアセンターに隣接する国有林を視察し、議論を重ねて議員決議案を作成しました。

決議案は仮置き場と復興計画についてそれぞれ作成され、仮置き場については設定を3年程度とし中間貯蔵施設とはしないこと、復興計画については見直しを行う時点でもっと多くの村民がこの計画に関わるようにすることなど条件付きで仮置き場、復興計画を承認する内容となっています。

この決議案は第11回12月議会定例会の席上で議決され、このことを踏まえて仮置き場、復興計画が本格的に動き出すこととなります。



▲特別委員会のようす

11/26

草野・飯樋両幼稚園で おゆうぎ会を開催

草野幼稚園、飯樋幼稚園
でおゆうぎ会が開催され、
たくさんの方の保護者ら家族が
会場を訪れました。

このうち、飯樋幼稚園で
は32人の園児が緊張しながら
も自信を持ったようすで
音楽劇などに取り組み、練
習の成果を発表しました。
また、会の最後には園児
と来場者らが全員で「上を
向いて歩こう」を歌いまし
た。



▲おゆうぎ会のようす(写真は飯樋幼稚園)

来場者は「普段の生活とは
違った一面を見ることがで
きた」「子どもの成長が見
られて良かった」と子ども
たちの成長を喜んだよう
でした。

12/9

草野幼稚園は 仮設住宅でも遊戯を披露

草野幼稚園児が松川第2仮設住宅集会所
で入居者を元気付けようと発表会で発表し
た遊戯などを披露しました。

来場者たちは子どもたちの可愛い遊戯が
終わるたび大きな拍手を贈っていました。



▲遊戯を発表する子どもたち

12/5

村本庁舎で食品等の放射性物質測定 機器の運用を開始



▲導入された測定機器

放射性物質の測定機器
が村役場本庁舎に導入さ
れ、村民を対象に食品や
水などの検査を行って
います。

この機器で測定で
きるのは放射性ヨウ
素131、放射性セ
シウム134及び1
37、自然放射性カ
リウム40の4種類で、
水や食品等1日平均
で15件ほどの検体に
ついて放射線量を測
定しています。

検体	検体名 : 湧水 採取地 : 大倉湧水場 測定日 : 平成23年11月25日	
測定場所	飯館村役場内 クリーンルーム	
測定器	NaIシンチレーションスペクトロメータ 日立アロカテクノロジーズ製 CAN-GSP-NM	
結果	放射性物質名	放射性物質量
	放射性ヨウ素131 (I131)	検出せず (<21.8) Bq/kg
	放射性セシウム合計 (Cs134+Cs137)	検出せず Bq/kg
	放射性セシウム137 (Cs137)	検出せず (<33.8) Bq/kg
結果	放射性セシウム134 (Cs134)	検出せず (<33.5) Bq/kg

▲測定結果は依頼者に郵送されます

- ① 申込方法は、飯野出張所内の農政係にあらかじめ電話予約(☎024-562-4700)
- ② 指定した日時に依頼者が村役場本庁舎に検体を持ち込むとなります。

測定結果は概ね2週間以内に依頼者に郵送されますが、データはあくまで参考値であり出荷用の証明にはなりません。なお、村生産の米・野菜等の食品は出荷できませんでご留意ください。

子育て相談室

— お気軽にご相談ください —

それはそれとして

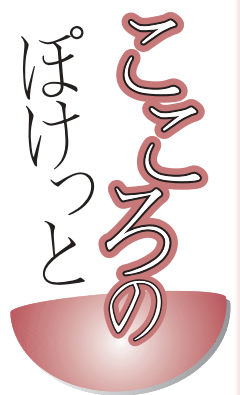
ふるさとを喪失したような状況になり、それによる心の痛みは計り知れない、と想像します。それは大変苦しい、つらいといった言葉をはるかに通り越した、その人しか感じることでない心の痛みであるに違いありません。飯館村の子どもたちも、かつての表情や態度とはどこか違う状況にあります。一見、健気であるように見えても、深い悲しみに捉われているように思えます。その上、この災難はいつ収束するのか分からないのですから、問題は深刻です。

教育相談では、問題を乗り越える援助を行うとき、「それはそれとして」という言葉を使います。問題が解決せず、つらい状況にあっても、言葉を交わす、食べる、学ぶ、働く、休息する、といった日常生活を平常通り行わなければならないので、「それはそれとして」と考える必要があるからです。

誰にも、災難のさなかにあっても、毎日を精一杯生きるという日常性が求められています。このような事態にあるからこそ、「それはそれとして」、現実を見極め、子どもたちの行く末のことを、より具体的に考え、行動に移して行くことが大切と思われれます。

年の初めのとき、家族みんな、わが家のあるべき姿を、子どもたちの未来を語り合われることを祈ります。それによって、子どもたちの決意が促されるのは確かです。

飯館中学校スクールカウンセラー
臨床心理士
海野 和夫



桜、咲かすため 真心をつくそう

正月です。「小話(こばなし)を1つ」にお許しを。
ドイツのある王様が誰も見ていない夜中に町の真ん中にそと大きな石を置いたそうです。

翌朝、酔っ払いの軍人がその石につまづきました。
軍人は「こんな石を置いたやつのはかやろう」と悪口を言って立ち去りました。次に、馬に乗った紳士が間一髪で大石に当たりそうになりました。

紳士は「ああ危ない。危うくぶつかって死ぬところだった。いたずらにもほどがある」と立ち去りました。

またしばらくすると、一人の農夫が荷車を引いてきて「こんな大石を置いて危なくて通れないじゃないか」と不平をたらたら言いつつ石を蹴って通り過ぎたそうです。

かくして、誰一人この石を取り除く人はいませんでした。

1ヵ月後、王様は市民をその広場に集めてこう話したそうです。「実はこの石は私が置いたのだ。しかし、今日まで誰一人みんなのために石を取り除こうとはしなかった。これは私の政治の欠陥だろうかから私が取り除こう」

王様が自ら動かした石の下には「この石を片付けた者に与える」と宝石や金貨が入った袋があった。というお話です。

私は王様でもないし、石を置くこともなく、宝石も出せませんが、この石は、今、村にふりかかっている災難に例えることができるのではと思いました。

難題から逃げたのでは物事は解決しないのだということを示唆する小話ではないでしょうか。

幸いに飯館村民は「自分たちのふるさとを自分たちで何とかしよう」と「まじいの心」を持って、それぞれの立場でみんな協力して困難に立ち向かっていただいています。

ですから、私は王様よりはるかに助けてもらっている立場にあるのだからさらに頑張らねばならないと強く思いました。こんな言葉がありました。

あれを見よ みやまの桜 咲きにけり
真心をつくせ 人知らずとも
平成23年12月16日

飯館村長 菅野 典雄

○ 教育相談は飯館中学校 (☎024-566-3100、3118) へ電話でお申込みください。

11月25日	・第3回飯館村除染計画説明会を開催 (小宮行政区住民対象・福島市飯野町) ・第6回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会を開催 (議会・福島市飯野町)
26日	・草野幼稚園・飯館幼稚園でおゆうぎ会を開催
28日	・第4回いたて復興計画村民会議を開催 (福島市飯野町)
29日	・仮設住宅・公営宿舍避難者との懇談会 (福島市上名倉) ・草野除染モデル事業説明会を開催 (福島市飯野町) ・仮設住宅・公営宿舍避難者との懇談会 (福島市蓬萊)
12月1日	・仮設住宅・公営宿舍避難者との懇談会 (福島市大森) ・食品放射能測定器の村民向け運用を開始 (村役場本庁舎)
5日	・第7回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会を開催 (議会・福島市飯野町)
6日	・第5回いたて復興計画村民会議を開催 (福島市飯野町)
7日	・国が行う除染事業の拠点とするため、陸上自衛隊が村役場本庁舎の除染活動を開始 (18日・飯館村役場本庁舎)
8日	・いたて復興計画村民会議の代表が村に答申書を提出 (福島市飯野町)
9日	・第11回飯館村議会定例会開会
13日	・第11回飯館村議会定例会一般質問 ・相馬農業高等学校飯館校生徒と福島大学生がクリスマス会で交流 (福島市瀬上町)
14日	・第8回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会を開催 (15日 議会・福島市飯野町/現地視察)
16日	・第11回飯館村議会定例会閉会 ・政府が東京電力福島第一原子力発電所の原子炉が冷温停止状態になったと判断し、事故以来行程表のステップ2の完了を宣言。



▲12月14日 グリーンサンタと記念撮影 (飯館幼稚園)



▲12月9日 松川第2仮設住宅で遊戯を披露する草野幼稚園児

ひとのうごき

(11月21日から12月15日までに届け出のあったもの)

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前 親の氏名 行政区
11月21日から12月15日まで

赤石澤 寧 音 ちゃん 智・亜紗美 飯 樋 町

すくすくと育ててね

結婚おめでとう

氏 名 出身地

赤石澤 卓 上飯樋
伊藤 千鶴 郡山市

※10月に郡山市に届出
いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
山田 進	82	伊丹沢
坂本 セン	86	草野
大和田 ウメ	94	比叢
鳴原 アキ	86	比叢
赤石沢 トミ子	76	草野
古川 アサノ	74	小宮
大村 留治	81	草野

ご冥福をお祈り申し上げます

編集後記

財団法人日本漢字能力検定協会が毎年発表している「今年の漢字」の世相を表現する「今年の漢字」2011年は大方の予想に反せず、1位は「絆」でしたが、2位に「震」、3位に「災」と震災を連想させる漢字が入りました。▽東日本大地震から9カ月。昨年は本当に震災に翻弄されただけの年だった印象が拭えませんが、新しい年が始まりました。今年「絆」に加えて「和」とか「平」のように穏やかな話題が増える1年になってほしいものです。

12/6~12/18 陸上自衛隊が村役場本庁舎周辺を除染

12月6日から18日までの2週間、村役場周辺で陸上自衛隊による除染活動が行われました。この除染活動は、国が行う除染事業の拠点にするため、飯館村のほか、浪江、富岡、楡葉の4カ所で行われたものです。

取材を行った8日には、雨の中、隊員が防護服にゴーグル、マスクと完全防備で高压洗浄機やスコップなどを使いながら手作業で除染を進めていました。



▲除染活動の様子



広報いたて11・12月合併号10ページの現在開催中のサロン一覧の中で、吉倉公務員宿舎1号棟集会所で開かれているサロンの開催日時を毎週火・木曜日午前と表記していましたが正しくは毎週月・木曜日午前の誤りでした。同じく伊達市伏黒応急仮設住宅談話室で行われているサロンの開催日時を毎週水曜日午前と表記していましたが正しくは毎週水曜日午後です。お詫びして訂正いたします。